

## 研修よもやま話 ①

ホームステイ

JICA 地球環境部 西村 拓

夜9時過ぎに到着したため、家はもう眠る準備に入っていた。しかし、「せっかくだから、起きている子供とだけでも30分位話をしたいか」とお願いしてみると、それを期待していたかのように子供たちが起き出してきた。その数が際限なく増え続けるので、だんだん不思議になってきたが、後で聞いてみると、近所に住む従兄弟らも含まれていたとのことであった。両親も子供たちもタガログ語しか話せない。1年制カレッジ卒の次女だけが、英語を流暢に話せたので、彼女が通訳係となった。マニラ市内の日系企業に勤める彼女は、毎朝3時起きで出勤だという。それでも、彼女は付き合ってくれた。

とりあえず日本風のお土産をと思い、折り紙や和紙便箋や筆ペンを持って行ったのだが、ここで目論見の甘さを痛感することになる。折紙を出した途端、彼らはツルから箱から薔薇から、何十種類もの作品を次々と折り始めたのだ。聞けば、折紙は教材として小学校の授業でも使われるそうで、三、四十種のレパートリーを持つ彼らから「何か新しいのを教えて」と頼まれて降参するハメになった。最後には、たくさんの折紙作品をお土産にもらった。自分が教えられる日本の文化を考えた結果、空手を思い出したが、何せ外はもう真っ暗だ。仕方なく、翌日の空いた時間に青空道場を開く旨を伝えて、その夜は寝ることにした。

トイレの場所を教えてもらったが、両親の寝ているベッドの部屋の通らないと外のトイレまで行けない構造だ。横を通った際、お母さんを起こしてしまった。夜中にトイレに行かないで済むよう、飲み水は控えることにした。寝室に案内されると、大きなベンチにシーツ1枚かかれただけのベッドがあった。

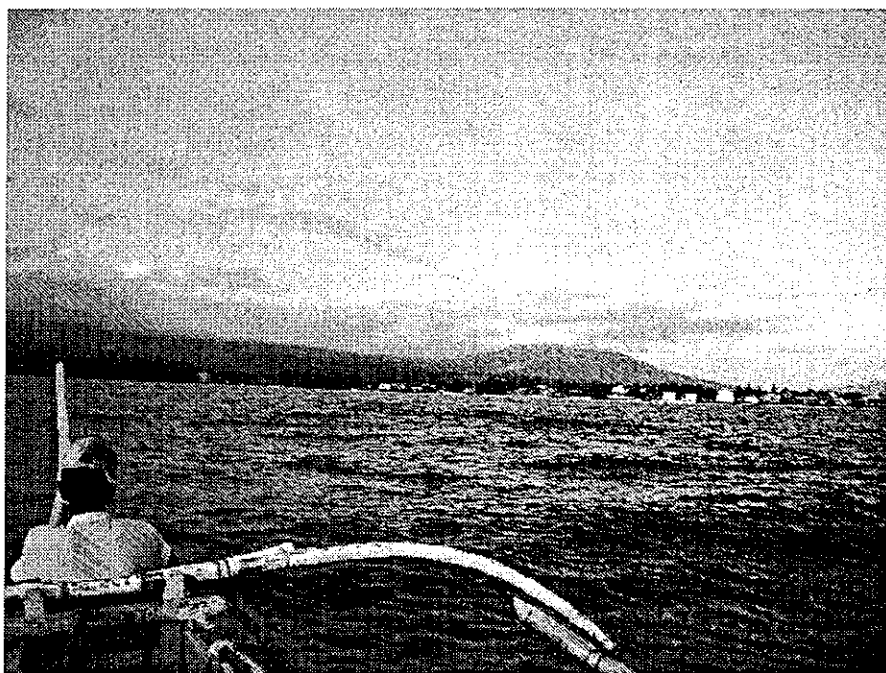


集まってきた村の子どもたち

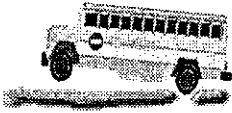
ゲストルームなどはないだろうから、自分は子供達を別の部屋に追いやって窮屈な思いをさせているのだろう。汚さないようにタオルを敷いて眠りについた。蚊に刺されたり、深夜のスコールが静かに屋根を叩いたり、田舎の漁村で

は一晩の間にも様々なストーリーがあったが、次の日は、朝 4 時から漁体験の予定だったので、とにかく寝ることに集中した。

翌朝 7 時前、漁体験から戻った後、朝ごはんを振舞ってくれるお母さんに「空手を教える約束をしたけど、子供たちはどこにいるの？」と身振りも交えて尋ねたが「どこかに遊びに行っちゃった」とのことであった。家に残っているお母さんと三女に繰り返しお礼を言って家を出たものの、物をあげただけで結局何にも教えてあげられなかった自分が何となく不甲斐なかった。自己本位に違いないが、いつの日か、「果たせなかった約束」という忘れ物を取りに戻るために、きつとここを再訪しよう・・・家から集合場所へと続く砂地の道路を一步一步踏みしめる毎に、小さな決意が固まっていくような気がした。



漁を終え村へ帰る漁船 (話③)



## 研修よもやま話 ②

空港には気をつけろ！

JICA 中東・欧州部 飯塚 健一郎

研修最終日、JICA フィリピン事務所でのプレゼンテーションを終え、一路空港へ向かった。前夜パワーポイントの資料作成のため、ほとんど寝ていなかった僕は、一団を離れ、飛行機が出発するまでゆっくり休むつもりであった。

フィリピンでもテロ対策のため、空港でのセキュリティチェックは厳しく、最後のセキュリティチェックは長蛇の列であった。その列を疲れた体で並びながら、早く席に座って休みたいと心から思っていた。

ようやく僕のセキュリティチェックの番が来た。係員は財布を出せだの、ベルトをはずせ等かなり厳しかった。挙句の果てには、持っていた上着も財布が乗せてあったボードの上に乗せろと指示された。疲れが頂点に達していた僕はただ従うだけだったが、なんだか係員の手の動きが変だったのを今でも覚えている。

セキュリティチェックが終わったあと、何気なく財布を見てみると、お札がはみ出していた。これはおかしいと思い、財布の中を見てみると1万円がない！確かに昨晚2万円入れたのをはっきりと覚えていたから間違いなかった。

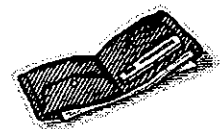
犯人は明らかだった。さっきの怪しい手つきの係員。僕は荷物を友人に預け、すぐに空港の警察に連絡。すぐに取調べが始まった。係員は否定していた。そこに他の日本人もやってきて、「こいつが俺の金も盗んだ」とちょっとした騒ぎになった。

とりあえず僕らはVIPルームに通され、盗難届を作成。その後、警察からいろいろ説明されたがよくわからなかった。僕が気になったのは、とにかく1万円のことだけだった。

飛行機が出る20分前、警察に再度呼ばれた。どうやらその怪しき係員は僕の1万円を持っていたとのこと。犯人の確認をするためにその係員の前に連れて行かれた。疲れも怒りもピークに達し、思わず悪態をついてしまった。

警察の話だと、犯人はグループを形成しており、主に500円玉等目立たない小銭をせしめており、手に入れるとすぐに他の仲間に渡して、証拠を隠滅しているようだ。ただ、僕の財布から抜き取ったのが1万円で、犯人もそれを自分の物にしたかったのだろう。肌身離さず持っていたのが、彼の運命の尽きであった。

とにかく戻ってきたのでよかった。この事件ですっかり疲れも吹っ飛んでしまった。いくら空港といえども、最後の最後まで気を抜いてはいけないことを身にしみて感じた研修であった。

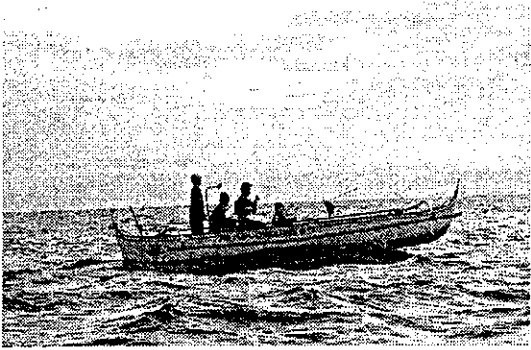




## 研修よもやま話 ③

### 初！出漁体験 in フィリピン

JICA 中東・欧州部 飯塚 健一郎



11月26日、土曜日にもかかわらず、朝4時前起床。連日のインタビュー疲れも残る中、私たちはマニラ湾に漁に出た。釣りなんて小学校以来の僕にとって、もちろん出漁は初めてだった。

船は想像していた以上に小さかった。長さは5m、幅は50センチ位だろうか、とてもこれで海に出るとは思えなかった。

まだ周りは暗い中、それぞれの船は2人組となって海へと出発。「船長」と「助手」を合わせ4人が乗った小さな船はゆっくりと進み始めた。

僕が乗った船は、日本に19年間滞在したことのある人が船長だった。決して流暢ではないが、日本語はしっかりと通じていた。

日本では左官屋さんをしていたようで、池袋に住んでいたとのこと。帰国後は漁師を職としているのだが、「セイカツタイヘンダヨ」が口癖にもなっていたとおり、やはり漁で食べていくことはとても大変なようだ。

日が昇り始めたころ、船は漁場に到着。「船長」と「助手」は、馴れた手つきで網を海へ放つ。網が放たれた場所を船は何度も旋回し、魚を追い詰める。そして、その網を引き上げる。まさに職人芸であった。僕たちも手伝おうと思ったが、生活がかかっている仕事に手を貸すことができなかった。網にかかった魚は十数匹。それが今日の稼ぎとなる。決して十分な稼ぎにはならないのだろう。

彼らの生活は確かに、船長の口癖にもあるように「セイカツタイヘンダヨ」なのかもしれない。彼の陽気な口癖の中にも、彼らの置かれている現状が船の中でも痛いほど胸の中に伝わり、何気なく船に乗っている僕の心を締め付けた。

僕らにできること、今は具体的にはわからないが、誰のために何をするのか、をいつも自分の中心においておきたいと考えた出漁体験であった。

## 6. 海外研修アンケート集計結果

古澤めい

海外研修では、国内研修で議論した「人間の安全保障」の重要な視点をもとに、グループごとに大事にしたい3つの視点、「弱者への配慮」、「エンパワーメント」、「アクター間の連携」を挙げてもらい、これらの視点から実際のプロジェクトを見た。3つの視点に関する限り、ほとんどの参加者が「学べた」と答えており、国内研修で学んだことを実際のプロジェクトを通じて、さらに理解を深めるという海外研修の目的はほぼ達成できたと思われる。国内研修との関連性も意識されており、特に、これらの視点が具体的なイメージとして考えられるようになったのは、海外研修の成果であろう。また、ほぼ全員が研修の成果を今後の自分の業務に「活かそう」と答えている。

事前課題や事前情報については、内容・量・時間ともにほぼ適切であったと評価された。NGOのプロジェクトに関しては、PRRMの印象が強く、草の根援助運動の情報が不足していた、また現地組織の関係の情報が事前にほしかったという感想が聞かれた。特に、草の根援助運動の情報は、外部者としての我々の関わり方を考えるためには、さらに必要だったと思われる。

フィリピンの歴史や社会背景に関する情報があればさらに理解が深まったという声が複数の参加者からあった。現地の背景に関するレクチャーを事前研修に入れる、または事前資料を配布するのも方策かもしれない。

スケジュールに関しては、インタビューが多くハードだった一方、分析やまとめの時間が少なかったという感想が多く見られる。筆者が参加した2003年の海外研修では、毎日夜中までグループでのまとめ作業をやり、それに比べるとスケジュールに余裕があったように思うが、時間配分は今後の課題であろう。

また、漁村でのホームステイを一泊入れたが、家族と交流する時間が少なかったという声があった。特にJICAの参加者にとって、ホームステイは人々の生活を知る貴重な機会であり、スケジュール上、難しいかもしれないが、今後の研修では配慮が望まれる。

研修全体を通じて、NGOとJICA参加者間の交流がもっとほしかったという声が聞かれた。研修中はテーマを追うのに精一杯になりがちだが、本研修のもう一つの目的であるNGOとJICAの交流を促す仕掛けが多少必要かもしれない。

## 《参加者アンケート》

参加者 16 名 (NGO-7 名、JICA-8 名、JICA フィリピン事務所インターン-1 名)

### I. 研修の目的やテーマの達成度について

(1) 今回の海外研修で、「人間の安全保障」で大事にしたい視点のうち、以下の 3 項目についてどの程度理解が進みましたか。5 段階でご回答ください。また感想もお寄せください。

#### ①弱者への配慮

理解度	かなり多く学べた	多く学べた	ほぼ十分学べた	やや不足した	不足した
回答人数	8 人	2 人	3 人	2 人	0 人

#### 【感想】

##### かなり多く学べた

- ・ NGO や PO を訪問する機会が多かったため、その組織が誰を対象者としているのか常に確認し、弱者への配慮ができていくのかという視点で研修を続けられた。
- ・ 森林保全案件でも村に入って調査を行い住民裨益を主体とするが、自身のミッションであることによる限界（相手に期待をさせてしまうなど）は避けられない。また、スカベンジャーや出稼ぎ帰国者などの自身の担当分野以外の社会的弱者の視点を多く聞いたことは新鮮であった。
- ・ JICA であっても NGO であっても、プロジェクト単体で最貧困層へ裨益させるのは困難であり、その際にアクター間の連携が重要となる。
- ・ 現地でのインタビューを通じて、JICA のプロジェクトが意外なところで弱者支援に貢献していることを理解することができた。
- ・ 最貧困層に直接手を差し伸べられないプロジェクトにおいても、プロジェクトの対象者を通じて、最貧困層へのアクセスを考える視点（自分よりも弱い立場にある人々への気づきを促す）をプロジェクトに盛り込んでいくことができるという視点を持つことができたことが非常に有意義だった。
- ・ 配慮の難しさを実感した。

##### 多く学べた

- ・ 国内研修で「弱者とは?」「最貧困層とは?」ということなどについて多く議論したことは、海外研修で現場の状況から判断する際に土台となり、とても有用だったと思う。
- ・ 「弱者」の捉え方の複雑さ、重層性を感じることができた。一面的、一方的、援助側からのみの視点などでは捉えきれない状況がある可能性を教訓としたい。

##### ほぼ十分学べた

- ・ 意外なところで、PJ の活動が弱者支援につながっていたり、また逆につながっていなかったりしていた。要は気づくことの重要性だということが理解できた。

##### やや不足

- ・ 弱者を知るには、インタビューが偏っていた。特に政治的対立がある中で、NGO の現場に関しては、プロジェクト内部の住民にしかインタビューできなかったことにより、その後の分析が片手落ちになったと考え、不足とした。

##### 回答なし

- ・ 自分が現在関わっている活動のひとつが PRRM のそれと大変似ていると感じた。議論の中で、未組織住民＝より弱者に属する人々にどうやってアクセスするのかという問題提起があったが、耳が痛かった。時間をかけて”Farmer to Farmer (PRRM の場合は”Fisherman to Fisherman”か?)”で、すなわち、ある地域で人材を育て、そこから他の住民に波及させていこうというかたちで社会変革を目指す活動においては、どうしても「今日、明日食べるものを手に入れる」ことを心配しているような（より弱者に属する）人々を、今すぐ巻き込むことが難しい。社会変革によってそういう人々もいずれ裨益するようになれば、と考える「プロジェクト」においては、それでも OK かもしれないが、人間の安全保障という視点に立ってみて、それは許容されることなのか、本当にそれでいいのか、という大きな課題をつきつけられた思いがする。ただ、一方で、人間の安全保障という視点を持って活動していくには、今日、明日だけでなく、5 年後、10 年後の安心した暮らしを視野に入れて社会変革を目指してい

く必要がある。結局は、矛盾をかかえ、限界を自覚しながら活動していくしかないのだろう。そのためには、まず謙虚にならなくては、と痛感した。

## ②エンパワーメント

理解度	かなり多く学べた	多く学べた	ほぼ十分学べた	やや不足した	不足した
回答人数	2人	5人	7人	1人	0人

### 【感想】

#### かなり多く学べた

- ・マニラベイプロジェクトにおいて、住民の自負心の向上を目指して、実際にその成果が見えたことが参考になった。

#### 多く学べた

- ・エンパワーメントについては、対象者を吟味する重要性を再確認した。→エンパワーメント後、どのように活用するかまで確認しておく必要がある。
- ・TESDA ではジェンダーに配慮した技術コースの設置やジェンダーに関する講義を全コースに盛り込む等女性のエンパワーメントを促す活動が見られた。NGO サイトでは PRRM が PO に助言する等の活動を通して、PO をエンパワーメントしている様子が見られた。
- ・ジェンダーや住民自身による組織運営など、意識の変容というエンパワーメントをみることができた。
- ・経済、社会的なエンパワーメントのみならず、心理的なエンパワーメントによる自信という側面について効果があることを確認した。一方、社会が抱える構造的な問題へ対処するためには、個人のエンパワーメントという側からのみではなく、社会全体へのアプローチ、組織のエンパワーメントも重要であることを再認識した。

#### ほぼ十分学べた

- ・エンパワーメントの主体となる人から真意を聞き取るのは、信頼関係を築いてからでないと難しい。時間的制約から仕方ないと思う。
- ・エンパワーメントを測るときはやはり、当事者（研修の受講者や住民組織のメンバーなど）へのインタビューが重要。話すときの目や顔の表情などからエンパワーメントを感じ取ることができる。

## ③アクター間の連携

理解度	かなり多く学べた	多く学べた	ほぼ十分学べた	やや不足した	不足した
回答人数	4人	2人	7人	2人	0人

### 【感想】

#### かなり多く学べた

- ・JICA と NGO とのさらなる連携が不可欠であることを認識した。
- ・特に NGO のプロジェクトは、連携のあり方が一見複雑だが、非常に良く出来ていて感心した。

#### 多く学べた

- ・NGO と JICA のプロジェクトそれぞれを見ることで、それぞれのプロジェクトが現状では関わっていないアクターとの連携の可能性を考察することができた。

#### ほぼ十分学べた

- ・多くのアクターが連携構築に努力していることは理解できた。但し、そこから詳細分析を経ずに「皆、戦略的に連携すべきだ」という予定調和的な結論に飛躍したため、では具体的に JICA が「誰と」「何を」連携するべきかについては見えてこなかった。
- ・アクター間の連携というと非常に困難なもののように考えていたが、NGO プロジェクトの視察により、工夫次第で連携協力が可能であることを学んだ。
- ・TESDA では関連企業への OJT の受入等、民間分野への連携も見られた。PRRM の訪問では PO、町、州等の強力な縦の連携が見られた。

- ・連携をとっている事例を検証したが、それをどう活かしているか、今後はどのような展開を考えているのか、ということまでは研修の中で知るには時間的に限界があった。
- ・政府レベル、PO 等組織レベルなど様々なレベルでの連携があった。社会全体へのアプローチをするためには、政府レベル、グローバルレベルに対してプロジェクトや取り組みを有機的につなげていくことも重要。

**やや不足**

- ・PRRM の事例では、多くの組織やグループの人々にインタビューをすることができたが、もう少し具体的にどのように戦略的な連携を図っているか学べればよかった。

**回答なし**

- ・これについては「アクター間の連携は大切です」ということ以上に深い学びはなかったように思う。が、今回の研修に参加していろいろな方と話しをして、自分と違う考えを聞くことができたのは大変よかった。

(2) 上記 3 項目以外で、多く学べた項目があればご記入ください。

- ・人間の安全保障と Rights-based Approach の組み合わせでより多くの人へのエンパワーメントが実現できるのではないかとということ。
- ・「文化・政策整合性」(一中国やタイのように) 歴史上に絶対主権が存在しなかった場合に、ナショナリズムをどう形成するか、という社会的課題が発生し得ることを深く学べたと思う。
- ・JICA の人は働きすぎではないかと心配になった。日ごろ JICA の人に余裕のなさを感じていたが、どうやら本当らしいと思えた。
- ・人間の安全保障は国家の安全保障と対比させた概念であり、両者は別物として考えていたが、人間の安全保障の達成には、社会背景等、国家が関与する部分も多く存在することを理解した。
- ・フィリピンの社会問題を肌で感じ、それを「人間の安全保障」の視点からどう解決するかを深く考え、学んだ。
- ・関係者間の VISION の共有の重要性
- ・PRRM の事例から、” bottom up, top down” アプローチの成功例を学ぶことができた。

(3) 今回の研修で得られた事柄は、今後のご自身の業務に取り入れ、活かしていけそうですか。コメントもお寄せください。

全てを活かせそう	多くを活かせそう	ある程度活かせそう	少しは活かせそう	あまり活かせない
3人	5人	7人	0人	1人

**【コメント】**

**全て活かせそう**

- ・確固たる手法を模索中である自然環境分野における住民参加型アプローチについて、一担当として今回の研修で得られた視点を持つことが強く求められるので活かしていきたい。
- ・TESDA、NGO、PO と様々な組織を訪問したことでそれぞれの役割、また長所短所等を垣間見ることができた。こうした組織一つ一つの役割が大きな目標が達成される過程において重要である。こうした多様な視点をこれからの業務でも活かして生きたい。
- ・プロジェクトを現行からどう充実させるか、ということとにかく目がいきがちだが、「人間の安全保障」の視点からプロジェクトを批判的に見て改善させるところまで、業務に活かしたい。

**多くを活かせそう**

- ・案件形成には十分配慮して実施したいと考えている。
- ・直接業務に活かす機会は少ないが、今後の業務に必ず活かしていく。
- ・草の根技術協力事業の案件形成に生かしていきたい。

**ある程度活かせそう**



- ・ 企画調査員として案件形成の際に、人間の安全保障の視点を取り入れることをしていきたい。
- ・ 外務省評価委員会など外部有識者への業績説明の際に活かしていきたい。
- ・ 今の部署では、JICA の ASEAN に対する協力の方向性（特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）や計画を立てる際に、人間の安全保障の視点を取り入れること、広報などの観点から人間の安全保障の案件を取りまとめることにおいて活かしたいと考えている。
- ・ マニラの TESDA 女性センタープロジェクトは、所属団体のアフガニスタン・カブールでのプロジェクトで都市部という共通点で、また、オリオン町の PRRM のプロジェクトは、所属団体のカンボジアのシムレアップで湖での漁業をする住民を対象としたプロジェクトで、今回の研修中で得たアイデアを活かしていきたい。
- ・ 自分自身が関わっているプロジェクトを「人間の安全保障のメガネ」をかけて見直すよききっかけであった。参加者同士のネットワークが広がったのが良かった。

**あまり活かさない**

- ・ 職場ではプロジェクトの分析や評価が役に立たないが、NGO 間の連携を図る上で、実施系 NGO 関係者と議論し、関係を築く上では、一般教養的に役立つことがあるかもしれない。

**(4) 今回の研修の目的であったのに、達成できなくて残念だったことはありますか。**

- ・ NGO-JICA の距離がまだまだあったような気がする。もっと相互理解を促す上で、最初のアイスブレイクを充実させるべきであると思う。
- ・ PRA もしくは PLA の手法を用いて調査を行うこと。
- ・ ホームステイ先でインフォーマルな調査をすること。
- ・ 最貧困層（未就学児童や未組織漁民）への接近
- ・ オリオンでもう少しホームステイの家族とおしゃべりをしたかったが、疲れていて寝るしかできなかった。
- ・ インタビューが予想よりもなかなかうまくいかず、プロジェクトの内容把握の点で十分であるとは言えなかった。
- ・ NGO の方々との相互理解という点が不十分だったように感じる。
- ・ プロジェクトのいい面、苦労など色々伺うことができたと思う。プロジェクトを実施する側（JICA 専門家など）とざっくりばらんに話す機会があればもっと良かったかもしれない。
- ・ 各プロジェクトで、弱者への配慮、エンパワーメント、アクター間の連携について、ある一定の成果をみることができたが、その成果を得るまでの道のり（何が功を奏したのか一例：どんな内容のワークショップを何回実施したのか、等）や、具体的なノウハウまでは時間の制約上、把握しきれずに残念だった。特に PO の活性化を通じて受益者にアプローチする手法の PRRM のプロジェクトは、プロジェクト実施体制が自分の担当プロジェクトと共通する部分も多く関心を持ったが、各アクターをどう活性化させるかという具体的なノウハウは実際プロジェクトを運営管理する側にとって参考になる情報だと思う。
- ・ NGO と JICA の職員が本当に交流し、理解し合うこと。グループワークの作業の中でも、視点や、物事の進め方、何にプライオリティを置くか、などの点について差違をより多く感じた。また、普段の行動も、自然に JICA 職員と NGO 職員で分かれてグループができていたのが印象的だった。

**II. 国内研修との関連性について**

国内研修があったから海外研修がより充実できたと思いますか。

①国内研修に参加したからこそ海外研修を充実させることができた	8人
②国内研修との関連性のある程度持って海外研修に臨むことができた	5人
③国内研修と海外研修に余り関連性を感じなかった	2人

**【感想等】**

- ①・国内研修の学習の振り返りを活かすことができたと思う。
  - ・国内研修で事前に理解を深めていたことにより、海外研修にもよりスムーズに入ることが出来た。
  - ・国内研修に参加し、ある程度議論を深めたことで海外研修が充実したと思う。
  - ・国内研修と海外研修に間があったので、その間に自分でもっとしっかりとレビューをすれば、国内研修と海外研修にもっと関連性を感じて臨むことができたように思う。
  - ・人間の安全保障とは、という議論を事前にしていたことで、プロジェクトを見る視点をしっかりと持って、現地に行くことができたと思う。
  - ・人間の安全保障は、耳にすることは多くても、とっつきにくい印象があったため、国内研修は、コンセプトを理解する上で役立った。
- ②・国内研修と海外研修との間に空白があったため、内容を結構忘れてしまっていた。
- ③・国内研修期間中には現地調査でのアウトプットを議論しなかった。また、両研修時期が離れていることで、共有は難しいと感じる。反面、両研修は別ものという考え方をしても問題ないようにも感じる。

### Ⅲ. 事前準備について

以下の設問について、5段階評価及び記述によりご回答ください。

- (1) 訪問プロジェクトについての事前情報（郵送・メール送信等）の量は適切でしたか。また感想・改善提案をお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	やや不足	不足
回答人数	0人	0人	13人	3人	0人

#### 【感想等】

##### 適切

- ・事前情報の量は適切であると思う。後は現地でのインタビュー調査をどのように充実させるかの問題であると思う。
- ・事前研修で質問等もできたので、事前情報の量は適切であったと思う。

##### やや不足

- ・インタビュー先や訪問先の事前資料が少なかつたように感じた。そのため、少ないインタビュー時間の大部分をその組織の位置関係や活動内容といった基本的な質問に費やさなくてはならない時もあった。基本的な組織の概要については資料で認識した上でインタビューに臨むようにしたい。
- ・大体適切だったと思うが、関係の組織図など NGO 側のプロジェクトの情報がもう少しあればよりよかった。

- (2) 21日の事前研修「プロジェクト概要説明」の時間量は適切でしたか。また感想・改善提案をお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	やや不足	不足
回答人数	0人	1人	13人	1人	0人

#### 【感想等】

##### 適切

- ・現地で質問することを考えると、事前の説明として適切な時間量であった。
- ・JICA 側について、わざわざ現地とつなぐためテレビ会議システムを使うよりも、草の根援助運動のよ

うに、その場（研修所）に来てくださっている職員の方に説明していただき、質疑応答したほうがわかりやすかったのではないかと思います。

- ・プロジェクト概要説明の時間は適切だったと思う。現地に行ってから、JICA 専門家との質疑応答の時間をもう少しとりたかった。
- ・TESDA 女性センタープロジェクトの説明は、現地に行ってから、伺ってもよかったかもしれない。
- ・PRRM に関しては、適切だったし、渡航前日に聞いた説明で事前情報が十分だったので、マニラの PRRM 本部の時間は少しもったいなかったような気がする。JICA に関しては、専門家の答えだけでは、センターの事業の詳細、卒業生の現状などは把握しきれなかったと思う。

**多い**

- ・PRRM のインパクトが強すぎて草の根援助の活動が PRRM の活動とうまくつながらなかった。たぶん、資金援助以外の活動の影が薄かったからだろう。少し強調して説明した方がよかったと思う。

**やや不足**

- ・NGO のプロジェクトについて理解するための時間が足りなかった。

(3) 事前課題の量は適切でしたか。また感想・改善提案（事前課題があったことについて及び内容について）をお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	やや不足	不足
回答人数	1人	2人	12人	0人	0人

**【感想等】**

**多い**

- ・結局あまり使えなかった。
- ・事前情報から質問したいことは多くあったが、「人間の安全保障」の視点からの質問項目に落とし込むのが難しかった。（そのような質問ばかりでもないの。）

**適切**

- ・内容が海外研修に必須のものであり、必要十分であると考ええる。
- ・もう少し早めに送付していただけるとよかった。
- ・事前課題は、頭の整理と国内研修のレビューのためにやった方がいいと思う。

(4) 21日（渡航前日）の準備作業の時間量は適切でしたか。 また感想をお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	やや不足	不足
回答人数	0人	1人	12人	1人	1人

**【感想等】**

**多い**

- ・準備時間は適切だが、最終目標がわかりにくく、手探りの状態だったので大変であった。（最終目標を手探りで探すのが研修の目的であるとは思うが）

**適切**

- ・空港への移動時間等も考慮すると、あれ以上長くできないので適切であったと思う。
- ・国内研修の内容で忘れてしまっている部分が多く、再確認してから現地に行けたのでよかった。

(5) 現地でのブリーフィング（インタビュー前の現状説明）の内容・時間量は適切でしたか。また感想等があればお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	やや不足	不足
回答人数	0人	1人	10人	2人	2人

【感想等】

**多い**

- ・ TESDA の女性センターでの、現地のスタッフからの話では前日の専門家からの話と重複している内容があった。また、TESDA の職員へのインタビューの時間がもう少しあった方がよかった。TESDA の方で重要な委員会となる GADC や女性センター内に設置されている CAC について、もう少し話が聞ければ良かったと思った。

**適切**

- ・ 少し短かったような気もする。
- ・ 実際に現場（授業風景等）を見ながら質問も多くでてくるので、ブリーフィングはあれくらいで適切な時間量であったと思う。
- ・ 改善点と挙げるとすれば、NGO 側プロジェクトでは、関係者が多く頭の整理がつくまで時間がかかった。

**やや不足**

- ・ 現地状況についてももう少し情報量が必要である。

**不足**

- ・ 特に PRRM サイトでのブリーフィングは、参加者に非常に疲れが見えているにも関わらず、夜遅い時間に行ったりと、内容は適切であったと思われるが、時間と場所、参加者の健康への配慮という視点からあまり効率の良いブリーフィングではなかったように感じた。
- ・ NGO のプロジェクトについて事前説明がほしかった。

**回答なし**

- ・ 特に PRRM 側について、インタビューするグループ名と所属者（漁師、女性、子ども、など）を説明するだけでなく、それぞれのグループの「関係性」についてあらかじめ説明をしてほしかった。また、これは両者であるが、訪問先の住民から「JICA に資金援助をしてもらっている」と初めて聞く例が何回かあった。研修参加者はみな「え？ そうなの？」と驚いていたが、これもお互いの団体がどのような関係にあるのか知るうえで重要な情報である。「アクター間の連携」などを検討する際に必要な情報であるし、前もって聞くことで質問も深くなるのでは、と思われた。

(6) ご自身で、事前にもっと準備しておけばよかったと思うことがありますか？現実的にできそうであったことがあればご記入ください。

- ・ フィリピンの JICA 事業について事前に調べておけばよかった。配布された案件概要表だけでなく、HP 等で情報収集をしておけばよかった。
- ・ フィリピンにおける JICA 及び NGO の活動状況について
- ・ 訪問先の歴史・文化に関する情報収集
- ・ PC は携行しなかったが、チームに誰も持っていないと大変であると思った。
- ・ NGO のプロジェクトについて、事前に準備しておいた方が良かった。実際に現地に行ってから基本的な知識を得ることが多かった。
- ・ 英語もタガログももっと復習しておくつもりだった。
- ・ 質問したいことを英語で考えておくこと。
- ・ 予定表に訪問する団体（TESDA、PRRM 以外の）についてほんの少しいから説明があると、例えば日本の NGO などについては自分でもどんな活動をされているのか調べていけたのではないかと思う。それによって、より深い質問もできたかもしれないと思った。
- ・ 人間の安全保障に関する書籍や事例を複数読んでおく、フィリピンの一般社会事情・歴史について学んでおけば、より学ぶことが大きかったのではないかと思った。また、オリオン町のホームページがあるのであれば、チェックしておけばよかった。
- ・ フィリピンの歴史、社会背景を勉強しておけば、研修中に見聞きしたことの、より深い理解ができた

と思う。事前研修日にフィリピン研究をされている方からのフィリピンの概略説明を含めてもいいかもしれない。

- ・フィリピンの歴史、社会背景の勉強。今回はスケジュールがタイトだったので、そこまで把握する時間を研修内では取りにくかったと思うため。ただ、これからは、研修内で研修に行く国の現況などがある程度押さえる時間があっても良いかと思う。
- ・フィリピンの社会的、歴史的背景についてあまりにも勉強不足だった。

#### IV. 海外研修のプログラム内容について

(1) 全体のスケジュール量は適切でしたか。また感想・改善提案をお寄せください。

量	かなりきつい	少しきつい	適切	少し余裕	十分余裕
回答人数	5人	7人	4人	0人	0人

##### 【感想等】

##### かなりきつい

- ・体調を崩すほどハードなスケジュールは逆効果。
- ・プロジェクト評価やプロジェクト立案が目的なら、時間の許すかぎりいろいろな人にインタビューをして情報を集める意義というのわかるが、今回のようにあるテーマについて考察することが目的であれば、制限された情報の中で考えることも可能であり、かつ有効であるのではないかと思った。スケジュールを詰め込みすぎていたため、みな疲れ果てインタビューできなくなってしまう場面が何度かあった。頭の働かない中インタビューすることは無意味だし、これでは訪問先の人にも失礼だろう。先方に申し訳なく思うことも何度かあったので、もう少し参加者の体力にも気を配るべきだと感じた。
- ・特に中盤以降だが、住民の前でインタビューもせずに寝たり、集中力が欠けたままで接したりすることは、相手に対して非常に失礼だと思う。このような状況になるくらいなら、柔軟に他の部分をキャンセルした方がいいと思う。集中力がなくなると多くの関係者に会っても、得られるものが少ないと思う。
- ・インタビュー先が多くて色々な情報が得られて良かったが、基本的に17-18時位には終わるスケジュールであってほしい。午前中、インタビュー、午後に調査結果のまとめ位の時間配分でないと、インタビューをしていても能率が上がらないので効率的でないと思った。

##### 少しきつい

- ・インタビューの数が多く、頭の整理が大変だった。もう少し現場の活動を見る時間があると、人間の安全保障の支援を取り入れたプロセスが理解できるものと思料される (ICAN や SALT はそういう意味でよかった)。
- ・自由時間等を設け、体調を調整できる時間が必要であったと思う。
- ・グループ毎に時間の使い方に差があっても、「今日はここまで」と区切ることも必要であろう。
- ・NGO サイトでの日程にもう少し余裕があればよかったと思うが、全体としては大変満足している。
- ・プログラムの終了時間が遅いときは多少つらいと感じたが、ホームステイの日以外は凡そ適切だったと思う。
- ・時間がおしがちなので、スケジュールに余裕があればよかった。

##### 適切

- ・きついが適切であると思う。

(2) もっと時間のほしかった訪問場所・プログラムがありましたか？

- ・ホームステイのプログラム。ほとんど家族と話す時間がなかった。現場での実体験はプロジェクトを実施していく上で貴重であると思料される。
- ・ホームステイ先でも正味6時間ほどの滞在だったので(22時→4時)、せめて半日ほど時間があれば村

人の生活をよりよく知ることができたと思う。

- ・ホームステイでは、家族と話す時間があまりなく、残念であった。
  - ・カプニタン村で住民（PO メンバーでもない）と話す機会がほしかった。
  - ・実際の NGO や PO による活動（ワークショップ、トレーニング等）を垣間見る機会がほしかった。
  - ・インタビュー後の内容確認の時間。
  - ・インタビュー後のグループでの意見交換、全体でのシェアリング、また全体発表の時間（最終日の報告会も含む）が非常に足りなかったように思う。インタビューも重要であるが、その内容をさまざまな視点から検討し、考察することでより理解が深まり研修をより意味深いものにすると思う。こうした時間をもっと多くとったほうが、効率の良い研修になったと思う。
  - ・Bataan での滞在時間が短くなってしまったのは残念であった。
  - ・オリオン町での市民向けのランダムな聴き取り
  - ・今回の研修のため、というより個人的には ICAN や DAWN や漁村の未組織住民に興味があり、もっとインタビューをしてみたかった。
- パヤタスについては、その場に住んでない、都市の住民＝自分たちが出しているゴミ、すなわちムダや社会のゆがみが全てそこに集まっているのだと思うと、人ごとではなく背筋が寒くなる思いがした。にもかかわらず、住民の方々に話をうかがうと、人間関係も築いてきたし、その場に住み続けたいという。この話を「彼らはゴミ山があっても大丈夫なんだ」と理解するのではなく、人々が、「そこにある関係性のためにその土地に住み続けたい」と思う気持ちを尊重して、そのための政策を考えるべきだと感じた。自分の活動地でも人々の土地に対する執着というか愛着を強く感じることもある。その考えに寄り添ってプロジェクトを進めることが大切だと常々感じていたので、もう少し話を聞いてみたかった。
- ・TESDA 女性センターでの専門家へのインタビュー

(3) もっと短時間、あるいは訪問しないでも良かったと思う箇所があったら教えてください。

- ・PRRM サイトでのインタビュー先を減らしても良かったと思う。その分、グループや全体でのシェアリング、発表の時間に当てたほうがインタビュー内容を効率的に検討できたと思う。
- ・漁業体験（個人的には楽しい体験ではあったが…。）
- ・PRRM マニラ本部。あの3分の1もしくは2分の1の時間で良かった。最初のビデオ鑑賞やガイダンスの部分は、日本の事前研修での内容と重複するところもあった。
- ・パヤタスでの NGO の活動現場訪問は、2 団体のうちどちらかだけでよかったのでは。

(4) インタビューは、十分な量を出来たと感じていますか？ 感想・改善提案をお寄せください。

量	かなり多い	多い	適切	少し不足	不足
回答人数	4人	2人	8人	1人	1人

**【感想等】**

**かなり多い**

- ・短い時間で多くの回数をこなすスタイルであったが、もっと一箇所に長く、いろいろな手法でじっくり、というやりかたでもよかったかなと思う。
- ・同じような PO や対象者へのインタビューが多かった。
- ・インタビュー先が多すぎて、その分、個々の内容が薄くなった気がする。

**多い**

- ・対象者には事前にインタビューの目的を伝えて（「研修」というだけでも）おいた方がよかったと感じた。
- ・偏っている。特に、NGO についてはプロジェクト内の関係者以外の状況把握は全くできなかったので、地域全体の人間の安全保障を検証することはできなかった。JICA については、センター内で会った卒

業生よりも、外で会った短期コースの受講者から、より本音らしき意見を聞けたりしたので、聞く場所も大きいと思った。

**適切**

- ・やはり英語は厳しかった。自主学習を進めるべきだと強く感じた。
- ・必要項目を聞き取る時間は充分にあった。ただ、もっとラフな会話から聞き取れることもたくさんあるので、時間があればそういう形でも良いと思う。(ホームステイ時間がもっと長ければそういう時間にあてられたらだろう。)
- ・カプニタン村に着いた時点でのインタビューはスケジュール的に厳しかった。
- ・自分の英語力の不足もあり、お話している内容を聞き取りづらいことがあった。

**少し不足**

- ・インタビュー前の確認(どの内容につき、誰に聞くか)がもう少し必要である。

**不足**

- ・インタビューでは、初対面の相手に、個人的なことを質問することになるので、インタビュー時間がもう少し長い方が、信頼関係を築きながら話ができていると思う。

**(5) 他にあればよかった訪問先・プログラムがあればご記入ください。**

- ・やはり、村落部訪問を中心にしたプログラムがあれば更によいものになると思う。
- ・大学(UP等)等の研究機関でフィリピンの市民社会全体の話(NGOの位置づけ)を聞きたかった。
- ・学校及び、子供が未就学のまま農作業をしている地域
- ・メトロマニラの都市貧困層のPOを訪問し、地方(今回のケースではオリオン町)のPOとの比較考察を行えたらよりよかったのではないと思う。
- ・TESDA以外にも日本のODAを単に「見る」ことなど、移動しながらできたらよかった。
- ・JICA:TESDA女性センターの卒業生の就職先、OJT先
- ・NGO:難しいとは思いますが、漁民グループに関わっていない住民グループや個人

**(6) 帰国報告会の発表時間は十分でしたか。感想・改善提案をお寄せください。**

量	かなり多い	多い	適切	少し不足	不足
回答人数	1人	0人	9人	3人	2人

**【感想等】**

**かなり多い**

- ・事前に発表形式などのイメージをもらえると準備時間の配分が適切にできたと感じた。

**適切**

- ・適切であったと思う。国内組も交えて、もっと意見交換やワークショップスタイルにしてもよかったのではと思う。

**少し不足**

- ・やはり、プレゼンの時間が20分では厳しい。30分が適当であると思料される。
- ・意見を伺うほどの時間がなかったのは残念であった。

**不足**

- ・発表時間は30分以上ほしかった。
- ・結果として。発表制限時間をかなりオーバーしていたので。

**V. 運営・実施方法について**

**(1) 海外研修の実施時期は、適切でしたか？**

適切……………14 人  
他の時期がいい…… 2 人

⇒いつ頃が良いですか？ ・8 月  
・9 月（できるだけ連休とぶつけて）

(2) 研修の期間（全体で9日間）はいかがでしたか？

適切……………12 人  
余り適切でない…… 4 人

⇒何日が良いですか？ ・12 日間（2 人）  
・11 日間（もっと余裕のあるスケジュールの方が効率がよいと思う。）  
・もう1日2日長くてもよい。

(3) 研修生の人数はいかがでしたか？

適切……………14 人  
余り適切でない…… 2 人

⇒何人が良いですか？ ・10 人前後（2 人）（移動、点呼に時間がかかりすぎ、ただでさえきついスケジュールがより厳しくなった。）

(4) 班分けはいかがでしたか？

適切……………16 人  
余り適切でない…… 0 人

(5) フライト・宿泊施設・現地での移動手段はいかがでしたか？ 全体的な満足度を書いてください。また感想・改善提案もお願いします。

①フライト（利用した時間帯及び航空会社について）

満足度	十分満足	満足	普通	やや不満	不満
回答人数	13 人	1 人	1 人	0 人	0 人

【感想等】

十分満足

・快適だった。

②宿泊施設

満足度	十分満足	満足	普通	やや不満	不満
回答人数	13 人	1 人	2 人	0 人	0 人

【個別の宿などの感想等】

十分満足

・ホームステイは非常に貴重な体験なので、是非続けてほしい。  
・マニラのホテルは豪華すぎるが、自分で泊まることはないだろうから嬉しかった。



- ・可能であれば、オリオンのホテルの部屋分けの際、女性は2階以上の方が防犯上よいのではないか。
- ・ホームステイは貴重な体験だった。マニラのホテルだけの宿泊だったらわからなかったり、感じるこ  
とが出来ないことが、ホームステイのおかげで体験できたので、ぜひ今後も続けるべきだと思う。

**満足**

- ・バターン州でのホテルについて、共同部屋であることのアナウンスを事前しておくべきだと思う。

**普通**

- ・PRRM サイトではホームステイもあり漁民の生活を知る上でよい経験となった。

**③現地での移動手段**

満足度	十分満足	満足	普通	やや不満	不満
回答人数	12人	1人	3人	0人	0人

**【感想等】**

**十分満足**

- ・マニラでは安全と便宜性を考慮し、マイクロバスを使うことが多かった。夜遅くまで事務所で作業があ  
ったり等、参加者がまとまって行動していたので適切であったと思う。
- ・バンのドライバーの運転が早くて渋滞を感じる事がなかった。

**普通**

- ・短期の研修では無理だと思うが、公共交通機関をもう少しだけでも使いたかった。

**(6) 参加者の皆様に担っていただいた係り（点呼、挨拶等）の量はいかがでしたか？**

量	多すぎる	少し多い	適切	ほぼ適切	もう少しあってもよい
回答人数	0人	0人	14人	1人	1人

**【感想等】**

**適切**

- ・グループごとに挨拶する人を適宜出していったので、円滑にあいさつの場面も進められた。
- ・点呼の係りは特に決めていなかったが問題なかった。

**もう少しあってもよい**

- ・参加者側が自覚を持つためにも、どんどんと責任を割り振ってよいと思った。

**V. 今後の取り組み**

**(1) 来年度、この「NGO-JICA相互研修」で取り上げたら良いと思うテーマがありますか？  
所属されている団体から参加させたいテーマはなんでしょうか？**

- ・人間の安全保障 (3人)
- ・貧困削減
- ・Rights-based approach
- ・Capacity Development
- ・一般市民参加
- ・アクター間連携の成果と課題、可能性
- ・評価
- ・NGO 案件のモニタリング等を実際に行う研修があると、NGO 関係者は自身の活動にそれを生かせ、また  
JICA 関係者も NGO 案件について再考できる機会となろう。
- ・NGO と JICA が現地で連携できているか、いないか、その障壁は何か、というように「連携」に焦点を  
あてるのも良いのではないのでしょうか。

- ・ 自立発展性を確保するには
- ・ 民間との連携のあり方
- ・ 草の根技術協力や提案型技術協力 (PROTECO) のスキームによるプロジェクトを JICA・NGO 職員が共に訪問する、など。
- ・ JICA-NGO 連携促進の現状 (PROTECO 事業などを見る。また、JICA 事業の一部を NGO が担っていたりする事業があれば、見学して参考にしたい。)
- ・ 「平和構築」などのテーマも、ニーズと興味関心が高いのではと思う。

★その他、事務局の手配・準備等について、また上記質問ではカバーされていなかった事柄について、次回への提言やお気づきの点、改善点などがあればご記入ください。

- ・ 事務局の皆様のおかげで、ものすごく実り多い研修になったと思います。ありがとうございました。
- ・ 大変ていねいに準備いただいていたと思います。お疲れ様でした。
- ・ 参加者層について、JICA 側は男性が多く、NGO 側は女性が多かったため、交流相手がどうしても JICA 側に偏ってしまった。参加者層については事務局で如何ともし難い事項ではあるが、今後の参考にさせて頂ければと思う。
- ・ グループ発表で既に提示されていますが、インタビューがより円滑に進むように事前に得られる付帯状況に関する情報等 (年齢や学歴等) は、予め現地スタッフから伝えていただくとインタビューの時にもっと別の質問ができるし、突然聞くよりは失礼がないかと思います。
- ・ 大変有意義な研修を計画して頂きありがとうございました。今後も是非続けていってほしいと思います。
- ・ アンケートでは改善点などいろいろと書いてしまいましたが、帰ってきてみれば大変楽しい研修でした。あれだけ大勢で個性の強い研修生をまとめるのはさぞかし労がいったと思われる。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。
- ・ 準備の段階から、参加者にも当事者意識を持たせる努力は行われていたかと思いますが、最後まで私はおお客様ですという意識が抜けない参加者が居たようです。自分たちがこの研修を作る、と参加者にもっと感じさせる工夫が今後はもっと必要かと思いました。
- ・ どうしても発表や議論は長くなりがちで、参加者の責任でもあるのが、仕切れるのは運営側なので、遠慮せずに参加者に指示してしまっていていいと思う。また、最終的な成果物 (発表内容等) については、初めの段階で明示 (紙に書く等) すると、限られた時間でもグループ内で深い議論が出来ると思う。例えば、JICA プロジェクトの訪問が終わった際にまとめるためのマトリックスが提示されたが、これは訪問前に提示した方が良かったと思った (準備不足な印象も与える可能性あり)。今回、チーム内で最終的にどこを目指すのかわからないという意見があって、それを解決するために時間が割かれてしまったのもったいなく感じた (各グループの裁量に全く委ねて感じたことを自由な発想でまとめてもらうという方法もあると思うが、その場合でもその旨参加者に伝えるべき)。
- ・ 配布資料 (字の細くないもの) は 2up の両面にすると環境にも、持ち運びの際にも負担にならなくてよいのではと思う。
- ・ 様々な団体によるプロジェクトをわずか数日の間に見学させていただく機会を得ることができたこと、参加者の皆さんの国際協力への熱き思いに接することもでき、全体では大変満足で、とても実り多き研修でした。後輩にもこういった研修への参加を勧めたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 出発前の成田泊については、希望する人のみでいいと思います。成田近くに住んでいる人もいたので、早朝の漁体験、楽しかったです。大変お世話になりました。どうもありがとうございました!



---

## 付録

---

- 研修募集要項
- 研修経費



# 参加者募集



JANIC・JICA 共催

## NGO-JICA 相互研修 2005

「現場から考える人間の安全保障

～NGO の視点、JICA の視点」

【国内研修】2005年9月15日（木）～17日（土）

【海外研修】2005年11月21日（月）～29日（火）

国際協力 NGO センター（JANIC）と国際協力機構（JICA）は、国際協力のパートナーとして NGO と JICA 双方の理解促進と課題探求のため、例年 NGO-JICA 相互研修を実施しています。

### 【NGO-JICA 相互研修検討委員会】

コースリーダー：

磯田厚子（女子栄養大学教授・国際協力ボランティアセンター（JVC）副代表）

検討委員：

下澤嶽（シャプラニール＝市民による海外協力の会）、尾関 葉子（DADA：アフリカと日本の対話のためのプロジェクト）、長有紀枝（ジャパン・プラットフォーム評議会アドバイザー・NGO ユニット幹事）、古澤めい（草の根援助運動）、戸賀竜郎（国際協力 NGO センター（JANIC））、牧野耕司（JICA 企画・調整部）、向井一朗（JICA 農村開発部）、竹内康人（JICA 国内事業部）、神内圭（JICA 青年海外協力隊事務局）、石上俊雄（JICA 国際協力総合研修所）



### 1. 研修の概要

「人間の安全保障の視点を取り入れてプロジェクトを行うと何が違ってくるの？」

「NGOこそ人間の安全保障を実践して言うけど、どうなの？」

「人間の安全保障の定義や概念って、もういちど議論してもいいんじゃない？」

緒方理事長のもと、改革を進めるJICA。「人間の安全保障」に基づいたアプローチを実践していくことは改革の大きな柱です。

今年度の相互研修は、NGO、JICAそれぞれの参加者が「人間の安全保障」について学び、誤解や課題を認識した上で、実際のプロジェクト事例などを基にその取り入れ方を議論し、現在各人が携わっている業務やプロジェクトの改善点を互いに見出します。

NGOスタッフの皆様、ODAで重視している「人間の安全保障」の概念を詳しく知りたい方、問い直しをしたい方、一言ある方のご参加をお待ちしています。JICA職員の皆様、「人間の安全保障7つの視点」も、NGOの参加者と議論すればもっと見えてくるのではないのでしょうか。

### 2. 研修・宿泊場所、参加費

【国内研修】JICA国際協力総合研修所（東京・市ヶ谷）（全員宿泊）

【海外研修】開発途上国（未定。03、04年度はフィリピン）のNGO及びJICAのプロジェクト現場を訪問します。宿泊もプロジェクト現場又はその周辺となります。

研修参加に必要な上京・渡航のための交通費及び研修期間中の宿泊費はJICAが負担します。

### 3. スケジュール(予定)

#### (1) 国内研修

9月15日（木）

13:30	NGO、JICA事務所相互訪問（希望者のみ）
17:30	国際協力総合研修所集合 開講式・事務連絡等、夕食
18:30	講義「JICAにおける人間の安全保障」
19:30	パネルディスカッション「現場から考える人間の安全保障～NGOの視点、JICAの視点」
20:30	振り返りグループワーク（グループワーク1）

9月16日（金）

9:30	グループワーク2「私の考える人間の安全保障」
10:30	事例紹介 （NGO、JICAそれぞれの「人間の安全保障」を取り入れたプロジェクトの取り組みを紹介） （昼食）
13:30	グループワーク3「事例分析」 （紹介事例の内容をグループで確認し、GW2の議論を踏まえつつ事例を分析） （夕食・懇談会）
19:00	グループワーク4「提案・発表準備」

9月17日(土)

	発表準備
10:00	グループワーク発表
	(昼食)
13:00	全体会1「概念整理」 (発表を踏まえ、各グループ・各参加者の考える「現場から考える人間の安全保障」について概念を再整理)
13:30	アクションプラン作成 (各参加者が現在担当している業務について、全体会1で整理した概念を取り入れたアクションプランを作成しフォームに記入)
14:30	全体会2「アクションプラン発表・総括」
15:30-16:00	閉講式 アンケート記入・解散

(2) 海外研修(現在調整中)

- 11月21日(月) 国際協力総合研修所にて事前オリエンテーション
- 22日~24日 渡航・NGOプロジェクト現場訪問・関係者インタビュー
- 25日~27日 JICAプロジェクト現場訪問・関係者インタビュー
- 28日 渡航先JICA在外事務所にて報告会・帰国
- 29日 国際協力総合研修所にて研修総括・帰国報告会



昨年度国内研修  
「全体会2」

昨年度海外研修  
(フィリピン)





#### 4. 募集人数

【国内研修】NGO スタッフ 16名、JICA 職員 16名 合計 32名

【海外研修】NGO スタッフ 8名 JICA 職員 8名 合計 16名

#### 5. 参加者資格要件

- (1) 日本に事務局を置く開発援助に携わる NGO もしくは JICA のスタッフで、所属団体の責任者からの推薦がある者。
- (2) 原則として 2～10 年程度の開発援助分野での実務経験（国内外を問わず直接業務を行った経験）を有する者で、かつ今後も同分野での活動を継続する予定の者。
- (3) 研修の主要部分はワークショップ形式で実施されるため、その中で所属団体または参加者自身が携わったプロジェクトのケースを紹介するなどの貢献ができる者が望ましい。
- (4) 原則として国内研修の全日程への参加が可能な者。
- (5) 海外研修については、国内研修、事前研修、事後報告会を含む全日程への参加が可能で、英語によるコミュニケーションが可能な者。
- (6) 受講決定にあたっては、研修の成果を所属団体の活動に反映できる方、JICA主催の研修に初めて参加する方を優先します。

#### 6. 参加申し込み方法

別添の参加申請書（様式 1）、参加者アンケート（様式 2）に推薦状（様式 3）を添えて、下記研修事務局まで郵送してください。

海外研修の受講も希望される方は併せて海外研修参加者アンケート（様式 4）もご提出ください。

#### 7. 申し込み締切日

平成 17 年 8 月 5 日（金）（消印有効）

# ご応募お待ちしております。



NGO-JICA ICT-03 NGO-JICA ICT-03 NGO-JICA



#### NGO-JICA 相互研修

主催：特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）  
独立行政法人国際協力機構（JICA）

#### お申し込み・お問い合わせ先：

独立行政法人国際協力機構 国際協力総合研修所  
人材養成グループ NGO-JICA 相互研修事務局  
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5  
TEL: 03-3269-3022 FAX: 03-3269-2054  
E-Mail: jicaiict-intern@jica.go.jp

2005 年度 NGO-JICA 相互研修  
 研修経費

(単位：千円)

項目	支出内容	経費
講師・関係者への謝金・交通費	・ 検討委員会開催 (7 回) ・ 国内研修講師 ・ 海外研修講師・同行者 ・ コースリーダー	905
教材費	参考資料購入 報告書作成	123
国内研修旅費	国内研修参加者・関係者に係る交通費	144
設営費	検討委員会、国内研修、海外研修事前研修の会場設営費	163
海外研修	海外研修参加者・関係者に係る国内交通費、航空賃、日当、宿泊費	4,715
	現地業務費	129
宿泊費	国内研修、海外研修事前研修に係る国内宿泊費	560
合計		6,739



